



佐世保の名所、史跡を再発見

市内には、昔から市民に親しまれて多くの名所、史跡があります。普段、何気なく見たり聞いたりしている場所でも、あらためてその歴史や言い伝えなどを調べると、新たな発見があるかもしれません。今回は、市内の名所や史跡をいくつか取材しました。



福石観音（福石町）

福石観音は、九州七観音の一つに数えられ、旧平戸藩の時代から「平戸八景」の一つとしても広く知られている名所です。
「本尊の十一面観世音菩薩像は、奈良時代の高僧行基の作と言われる木像で、本堂奥の行基岩と呼ばれる岩窟に安置されています。」



十一面観世音菩薩像

観世音菩薩像は年に3回、春秋の彼岸と夏の「四万六千日祭」のときに開帳され拝観できます。
本堂の隣には、弘法大師（空海）の木像を本尊とする大師堂が立っています。弘法大師は、平安時代に行基の行脚の跡を追ってこの地を訪れ、本堂のそばに清岩寺を創建したと言伝えられています。



四万六千日祭で大師堂にお参りする参拝者たち



五百羅漢

境内は福石山とも言われ、北側に登っていくと、弘法大師が座禅を組んだと伝えられている「座禅岩」があり、「羅漢窟」と言われる洞窟には、弘法大師が安置したとされる「五百羅漢」（写真左）があります。
羅漢像は、江戸時代に平戸藩主 静山公松浦清が再建したと言われ、第二次世界大戦までは羅漢窟にいつぱいの羅漢像がありました。終戦後、羅漢窟内が住居として使用されたため壊されたり捨てられたりして、現在はわずかに残っているだけです。



毎年8月には、「四万六千日祭」が行われ、この期間に参拝すると四万六千日参拝したのと同じ功德（くどく）が得られると言われ、たくさんの参拝者でにぎわいます。

福石観音清岩寺住職 松本一盛さん（48歳）

観音様は、老若男女、貧富を問わず、心のよりどころとすれば必ず救われると、たくさんの人から信じられています。
ここを訪れてくださった人が、少しでも心の安らぎを持ち帰ってくればうれしく思います。
これからも、開かれた場所として、気軽に足を運んでもらいたいと思います。



眼鏡岩（瀬戸越町）

眼鏡岩（写真右）は、高さ約10メートル、長さ約20メートルの岩で、向かって右側に直径約5メートル、左側に直径約8メートルの2つの穴があり、旧平戸藩時代には、平戸八景の一つに数えられました。
この地域に伝わる民話では、「大昔、昼寝をしていた大きな鬼が目を覚まし、手足を伸ばした途端、両足が前の岩に当たって2つの穴が開いた」とされています。実際は、この辺りは大昔は海中にありました。海水の浸食で軟らかい砂岩質の水成岩に穴が開いて次第に大きくなり、その後、隆起して現在の姿になったと考えられています。

人々の信仰の場所となった眼鏡岩を、多くの僧侶が訪れました。岩肌に刻まれている梵字と千手観音などは、平安時代に弘法大師がこの奇岩を見て「仏縁の地」と信じ、彫ったと言伝えられています。

国際通り周辺

佐世保橋

明治22（一八八九）年に最初に架橋されたときは、木造の橋でした。その後、明治37年の大洪水で流失したため、同39年に当時としては珍しいコンクリートの橋に架け替えられました。昭和14（一九三九）年には、拡張工事が行われ、当時は「海軍橋」と呼ばれることが一般的でした。昭和43年、米海軍原子力空母エンタープライズの佐世保港入港のときには、警察機動隊とデモ隊がここで衝突しました。現在の橋は、昭和60年に架け替えられた「3代目」です。



現在の佐世保橋
大正時代の佐世保橋

佐世保公園（平瀬町）



アルバカーキ橋を渡った右側の高い丘（写真左）は、もともと「横島」と呼ばれる島でした。江戸時代末期に横島を中心として、江戸時代に周辺が干拓され、播磨新田（塩田）となりました。明治時代になり、海軍鎮守府が設置されると、佐世保海兵団東練兵場となりました。

第二次世界大戦後は米兵とその家族のための公園として利用され、一般市民の利用は禁止されていました。昭和53（一九七八）年にその一部が返還され、翌年6月から佐世保公園として一般市民が利用できるようになりました。

凱旋記念館（平瀬町）

凱旋記念館は、第一次世界大戦の勝利を祝って大正12（一九二三年）に建設され、海軍に寄贈されました。第二次世界大戦後は、米軍施設となりましたが、昭和52（一九七七）年に返還され、同57年に市民文化ホール（写真右）となりました。



旧水交社（上町）



海上自衛隊佐世保史料館

水交社は、明治31（一八九八）年に建設されました。宿泊施設、食堂などを備え、海軍士官の懇親などに利用された3階建ての洋風の建物でした。第二次世界大戦後は、米軍施設となりましたが、昭和57（一九八二）年に返還され、現在は、海上自衛隊佐世保史料館の一部として、八角形装飾屋根などが残されています。

鎮守府跡（平瀬町）



明治22（一八八九）年7月に海軍の鎮守府が開庁されましたが、昭和20（一九四五）年6月の大空襲で内部は焼失しました。
戦後、米軍施設となりましたがその後返還され、現在は海上自衛隊佐世保地方総監部（写真上）となっています。